

世界史研究推進委員会

研究テーマ

「イスラーム世界の教材化」経過報告

厚木東高校 小島 正

本研究会が「イスラーム世界の教材化」を研究テーマにして、はや三年が経過しました。参加されている先生方は、日常の授業に役立つ教材の提供をめざす、という姿勢で会に臨まれています。この精神は今回のテーマでも大いに生かされております。例えば、昨年一二月の研究会において、アラブ首長国連邦に留学していた大学生（教育実習生）の報告を聞く機会を持ちました。たいへん興味の内容で、さまざまな観点から質問が飛び交いました。「耳学問」でも役に立つとあって会に参加されている先生方が意外に多いのです。私たちは、発表者の熱心な報告のみならず、参加されている各々の先生の含蓄に富んだ話を下敷きにして、日々の授業に生かしています。年七回の推進委員会に毎回二〇数名の先生方の参加が、そのことを物語っており、うれしいかぎりです。本研究会に皆さんの参加をお待ちしています。一緒に勉強しましょう。

さて今回のテーマの進捗状況はどうでしょうか？ 研究推進委は前進したのでしょうか？ この問いに簡単に答えることはできません。本年度は、全歴研の第四二回神奈川大会（昨年七月）がありました。神奈川大会の企画や運営に全面的にあたるなど、相当の時間を割いたこともあり、本研究会は「落ち着いて」研究を行うことが困難でしたが、そのような状況下にあっても、全歴研大会では、

「イスラームの街づくりと住民」（古川寛紀 上郷高）・「トルコ民族意識の変化について」（智野豊彦 戸塚高）の発表があり、研究の一端を全国の先生方にお見せできました。

また、秋の社会科学部会総会では、「バルカンのムスリム」（澤野理 新城高）・「イスラームの女性」（小杉隆一 大和高）、春の歴史分科会研究大会でも「イスラームの飲酒文化」（押野尚夫 中沢高）・「イスラーム世界の吟遊詩人の教材化」（大久保敏朗 厚木高）と、イスラーム関係の発表が次々と続き、研究が順調に進んでいると言えるのではないのでしょうか。

しかし、まだまだ研究は序の口であり、研究対象となるべき分野や地域は山ほどあります。さらなる精神を委員の先生方にはお願いしています。

さて、昨年度の各回の開催場所と前述以外の研究報告は次の通りです。

第一回（四月二日 新羽高）本年度の活動方針・予定確認。

二回（六月二〇日 厚木高）日本史・世界史合同推進委員会

三回（七月四日 外語短大附属高）全歴研大会の事前発表

四回（八月二三日 横須賀工業高）

『イスラームと民主主義』の書評」（小林克則 湘南高）

五回（一〇月三日 湘南高）

「軍艦の種別について」（根岸洋史 平塚農業高）

六回（一二月一日 外語短大附属高）

「色をめぐる色々な問題」（木村芳幸 横須賀工業高）

七回（一月三〇日 厚木東高）

会場を提供していただいた各学校に心から御礼申し上げます。